



～人と人とを心でつなぐ“医療コンサルティング”～

C-plan 通信 2014・7月号

<http://c-plan.biz>

info@c-plan.biz

☎ 03-6280-4897

☎ 050-3588-6764

★患者さんから選ばれる医療を目指して★

「安心・安全・信頼」を得るポイントは良好なコミュニケーションです。

良好なコミュニケーション力を軸にあらゆる側面から組織風土を組み取り、新たな環境づくりに取り組み続けます。

常に問題意識を持ち続け、前向きに経営に取り組まれている企業様・医療機関を支援し私達が提供したサービスがクライアント様に寄与し、ひいてはその先にあるお客様・患者さんに喜んで頂けることが私達の喜びです。



今月の C-plan

～スタッフ募集～

本社にて社長秘書(コンサル補助)を募集しています。(外勤はございません)

詳しい詳細は、下記へご連絡ください

TEL:03-6280-9241 FAX:050-3588-6764

kanribu@c-plan.biz 担当:清水

・医療従事者としての心構え
・接遇の基礎
・院内コミュニケーション
・報・連・相
・人材育成 等
研修内容・コンサルティング内容・お時間・費用などお気軽にご相談ください



6月5日 千葉県内医療系企業にて継続研修

6月20日 愛知県内県 歯科医院にて接遇研修



姿勢が良いです



清潔感あふれるスタッフです!!

スーツ姿が初々しいです

真剣そのもの

6月6日青森県内 公的医療機関にて講演会

6月30日 東北福祉大講義



◆入院患者の口論◆



入院患者が同室者殺害容疑

共同通信社 2014年7月7日(月) 配信

新潟県警秋葉署は5日、入院先の病院で同室の男性患者を殺害したとして殺人の疑いで、新潟市の男(50)を現行犯逮捕した。

逮捕容疑は5日午後7時10分から同20分ごろ、新潟市秋葉区の新津信愛病院の病室で、同県五泉市の吉沢悟(よしざわ・さとる)さん(69)の首を絞めて殺害した疑い。秋葉署は刑事責任能力の有無を調べる。

秋葉署によると、事件後に男が「私が殺した」と医師に打ち明け、医師が死亡を確認して署に通報した。2人部屋で、男はせきがうるさいなどと注意し、口論になっていたという



◆患者管理◆

患者ら 69 人分記録の私物 USB メモリ紛失

<http://www.cabrain.net/news/article/newsId/43168.html>

愛媛県の県立新居浜病院の職員が、透析患者と家族ら計 69 人分の個人情報記録された USB メモリを紛失していたことが、2 日までに分かった。今のところ紛失した個人情報の転載や流用の事実は報告されていないという。同病院は職員に対し、個人情報の取り扱いや適正な管理方法について周知徹底を図る方針。【新井哉】

同病院や県によると、同病院の透析室で 6 月 25 日、職員がデータの移行作業で USB メモリを使用。データを消去せずに室外に持ち出した際、紛失した可能性があるという。院内では、私物の USB メモリを業務に使うことは原則禁止とな

っていたが、この職員は患者らの個人情報が含まれたデータの移行作業に私物の USB メモリを使っていた。

紛失した USB メモリには、患者 23 人の氏名や住所、電話番号、透析記録と、患者の家族ら 46 人の氏名や住所、電話番号のデータが記録されていた。同病院は、対象の患者や家族らに事情を説明し、謝罪した。

同病院は今後、▽私物の USB メモリの使用禁止を徹底する▽職員を対象にした研修などで、患者や家族らの個人情報の取り扱いや管理方法について周知する—といった再発防止策に取り組むとしている



◆患者管理・2◆

誤って焼却か、患者 47 人分のカルテ紛失

<http://www.cabrain.net/news/article/newsId/43168.html>

誤って焼却か、患者 47 人分のカルテ紛失— 新潟県立吉田病院、清掃職員が回収

新潟県は 1 日、県立吉田病院で外来患者 47 人分のカルテを紛失したと発表した。清掃委託職員がごみと誤認して回収し、搬入先の焼却場で焼かれた可能性が高いという。患者の診療情報は電子カルテではなく、紙媒体で保存していたため、同病院は「院内の各種システムから薬の処方歴や検査結果などを出力し、診療には支障が出ないように努める」としている。【新井哉】

同病院や県によると、6 月 30 日に医事業務委託職員が月末の請求確認のため、福祉施設入所者 47 人分の外来カルテを入れた箱を医事室内に置いたところ、清掃委託職員が焼却ごみと間違えて回収した。

紛失に気付いた時点では、収集運搬業者が回収済みだったため、病院職員が

搬入先の燕市の焼却場に行き、作業を中断するように頼んで確認したが、カルテは見つからなかったという。同病院は「確認できなかったカルテは、状況から焼却されたと考えられる」と説明している。

同病院は、紛失したカルテの患者に対し、謝罪の文書を手渡す予定で、再発防止のため、清掃委託業者らの作業手順などを見直すという。県も「全県立病院に対し、カルテ管理に関して注意喚起を行う」としている



◆院内研修◆

長崎大学病院など3拠点「あじさい塾」看護師の研修充実

長崎新聞社 5月9日(木) 配信

長崎大学病院(長崎市)と国立病院機構長崎医療センター(大村市)、佐世保市立総合病院(佐世保市)は本年度から、県内看護師の研修の充実を図る「あじさい塾☆NAGASAKI」をスタートさせた。3病院が拠点となって外部からも広く看護師を受け入れ、地域全体で知識・技術の底上げを図る。

質の高い医療を県民に提供するとともに、若手看護師の離職、県外流出を防止しようとの狙い。県地域医療再生臨時特例基金事業の一環で、研修医の確保・定着を目指す「新・鳴滝塾」推進事業の“看護師版”に当たる。

長崎大学病院では4月、同病院に就職した64人のほか、外部の8病院から14人を受け入れて新人研修を実施。院内感染の防止や注射、輸液、薬剤管理、接遇などについて同病院の医師、看護師らが講義、指導した。長崎記念病院(長崎市)の中平瑛子さん(22)は「基礎的なことについても講義を受けられて、理解を深める良い機会になった」と話していた。

佐世保市立総合病院では外部の3病院9人を含む計54人に新人研修を行った。

今後、3病院では中堅看護師を対象にしたキャリアアップ研修を実施し、指導者育成にも力を入れる考え。9月21日には佐世保市三浦町のアルカス佐世保で諏訪中央病院名誉院長の鎌田実さん、10月6日には長崎市茂里町の長崎ブリックホールで

「看護婦が見つめた人間が病むということ」などの著作がある看護師の宮子あずささんの講演を予定している。

2015年までの看護師の需給見通しによると、県内では毎年600～700人規模の新人が就職し、再就業者も増えているが、それでも500人を超える看護師不足が続くという。就業場所を選択する際に「研修体制」を重視する人が多いため、人材育成システムの構築が大きな課題となっている。

あじさい塾の事務局を務める長崎大学病院看護部の貞方三枝子副看護部長は「3病院を拠点に、県内全体で高い看護教育が受けられる体制を整えたい」と話している。



◆社会問題◆

認知症行方不明者、昨年1年間で1万322人

(2014年6月5日 読売新聞)

<http://www.yomidr.yomiuri.co.jp/page.jsp?id=99640>

全国の警察が把握した認知症の行方不明者が、昨年1年間で1万322人に上ることが5日、警察庁のまとめでわかった。このうち1万88人(98%)は昨年中に警察の捜索などで見つかったが、今年4月末時点で151人の所在が分かっていない。

前年分も含めると、所在の分からない人は計258人に上る。

認知症の行方不明者に関する集計は2012年から実施され、今回で2回目。12年の不明者は9607人で、このうち107人の行方が今年4月末時点でも判明していない。

警察は主に、家族などから「行方不明者届」を受理し、認知症の不明者を捜す。昨年中に所在が分かった人のうち、受理から1週間以内に見つかった人が9949人で、6443人は受理当日に判明していた。一方で、1～2年後に発見されたのは11人、2年を過ぎていた人も32人いた。

発見時に生きていた人は9509人、388人はすでに死亡していた。残りは、親戚宅に立ち寄っていたなど、行方不明でなかったことが判明したケースだった。



◆株式会社 C-plan 業務紹介◆

1) コンサルティング業務

※下記内容につきましては、ほんの一例です。講演会・研修会とは違い、毎月実施することで、継続力と実践力がUPします。また、当院のオリジナルマニュアルや当院独自の基本行動も出来上がります。毎月1回の訪問と電話、メールは随時対応いたしますので、問題を置き去りにすることなく瞬時に解決できます。

◆コンサルティングメニュー◆



※内容に関しましては、進捗状況によって随時変更させていただきます。また、現状の問題点を優先に内容を組み立ててまいります。1年ごとの更新となります。

医療従事者育成のプロのコンサルタントが環境改善に努めます